

令和 8 年度 京都大学一般選抜
解 答 又 は 解 答 例 等 及 び 出 題 意 図

国 語 (理系)

- ・一義的な解答例等を示すことが適切でない問題については、出題意図のみを示しており、解答例等を示したとしてもあくまでも 1 つの解答例であり、これに限られません。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・「解答又は解答例等及び出題意図」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

出題意図 国語（理系）

大問一

出題意図（問題一全体）

本文は、恋愛という身近なテーマを巡り、筆者独自の視点から自在に持論を展開したものである。その中でも設問部分は、恋愛を表現する言葉やその歴史、さらに恋愛を描くことの意味を通して、筆者の言語観および表現論が展開する。行論に従って、その主張を的確に読み取る力と、それを簡潔かつ明確に表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：「愛という語で非常に苦労した」と筆者が概括することがらを、第一段落の内容を手掛かりに適切に要約することを求める。

問二：外来文化に合わせて増加した言葉、それに伴い現出した言語使用の実態について筆者が抱く「不安」の在処を理解し、明確に記述することを求める。

問三：これに類似した表現が数箇所を繰り返されることを手掛かりに、筆者が、言葉を用いて表現することをどのように捉えているかを読み取り、それを明確に記述することを求める。

問四：本文全体の主張を的確に理解しているかを問う問題。問うているのは、「恋愛について」考え、それを小説に書くことの意味であること、その両方の要素を本文全体の記述に明確に記述することを求める。

大問二

出題意図（問題二全体）

問題文は、「共生」という生物学由来の用語が権威化しスローガンと化していくプロセスを分析し、それが招来する「語の空洞化」のメカニズムを解き明かすものである。具体的な事柄を出発点にしつつ、無駄のない言葉で精密に考察を進めていく筆者の論述を正確に読み取り理解する力、およびその理解を明確な言葉で表現する力を問うた。

出題意図（個別問題）

問一：「共生」という語が「スローガン」と化して広まっていくとはどういうことか、筆者

の段階的な考察をたどりながら明確に説明する能力を問う。

問二：「人と自然との共生」というフレーズが、特定の選択とある価値の否応ない承認を求めるものと化す構造を内包しているとはどういうことか、本文の複雑な理路を整理し、適切な言葉で表現する能力を問う。

問三：「スローガン」と化した言葉が「空洞」をもつようになるのはどのようにしてか、本文の論述を踏まえた的確に説明する能力を問う。

大問三

出題意図（問題三全体）

鎌倉時代に成立した仮名法語（和文で書かれた法話）の一つで、『徒然草』にも影響を与えたことが知られる『一言芳談』からの出題である。中世の遁世者が理想とした信仰生活のありようを、古語及び古典文法の知識をもとに、本文から正確に読み取り、表現する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：逐語訳を前提としつつ、文脈にふさわしい訳語を選択できているかを確認する。

問二：傍線部に至るまでの本文の記述を手掛かりとして、傍線部の内容を適切に読解できているかを確認する。

問三：傍線部に続く本文の内容を十分に理解した上で、本文に即して的確にまとめあげることを求める。